



# 新型コロナウイルス禍におけるアルコール問題

1

## 新型コロナウイルス禍の薬物依存への影響

COVID-19 risk and social effect among patients with drug use disorders



国立精神・神経医療研究センター  
精神保健研究所薬物依存研究部  
心理社会研究室長

嶋根 卓也

Takuya Shimane

## Summary

本稿では国内外の研究をもとに、新型コロナウイルス（COVID-19）の薬物依存への影響を検討した。電子カルテを用いた米国の研究では、過去1年以内に物質使用障害の診断を受けた患者は、受けていない患者に比べてCOVID-19の発症リスクが約9倍高く、入院率や死亡率も有意に高いことが明らかにされた。循環器疾患、高血圧、肥満などの物質使用障害者に高頻度に併存する身体的併存疾患がCOVID-19のリスクを高めている可能性がある。国内の精神科医療施設を対象とした全国調査では、COVID-19により回復プログラムの参加が阻害されたことや問題飲酒が継続していることが、COVID-19に関連するリラプスの危険因子になっていることが明らかにされた。さらには、オンラインミーティングを導入した自助グループ、当事者が共同生活を送る民間回復支援施設への影響についても触れた。



### Key Words

COVID-19, 薬物依存, 併存疾患, 自助グループ, オンライン

### はじめに

本稿では、COVID-19による感染拡大、そして自粛生活や回復プログラムの制限が、薬物依存にどのような影響を与えているのかについて考えていく。本稿を執筆するにあたり、国内外の学術論文、研究報告書、インターネットなどの情報を検索したが、COVID-19と薬物依存との関連性を示した報告は限られたものだった。しかし、いくつかの研究を通じて、これまでみえてこなかった薬物依存症者を取り巻くCOVID-19の状況が次第に明らかになってきた。本稿ではその一部を取り上げ、若干の考察を加えたい。

### COVID-19の影響を受ける物質使用障害患者

#### 1. 物質使用障害患者はCOVID-19の発症リスクが約9倍高い

2020年9月、米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学のWangらは、物質使用障害者におけるCOVID-19リスクおよび予後に関する報告をしている<sup>1)</sup>。この研究は、約7,300万人もの電子カルテの情報を用いて、物質使用障害とCOVID-19との関連性を調べた初めての大規模調査である。Wangらによれば、過去1年以内に物質使用障害の診断を受けた患者は、受けていない患者に比べてCOVID-19の発症リスクが約9倍高いことが報告されている（図1<sup>1)</sup>。さらには、物質使用障害患者は、COVID-19の予後が悪化する可能性が高いことも報告さ